

吉報

令和2年2月10日、医療法人社団弘徳会 マオカ病院の鍋坂先生（前 香川県理学療法士会会長）が、第48回**医療功労賞**を受賞されました！

医療功労賞とは？

日本が世界有数の健康大国であるのは、優れた地域の医療従事者に支えられているためです。社会の高齢化が進むにつれ、地域医療への期待はこれからも高まります。読売新聞社は、こうした地域医療への貢献者を顕彰する目的で、医療功労賞を設立しました。

社会の変化や技術の進歩にともない、医療を取り巻く環境はめまぐるしく変わっています。医療功労賞が、すべての人が適切な医療を受けることができ、地域住民が健康で安心して暮らせるよう尽力している医療従事者の励みになることを願っています。

読売新聞 HP より一部抜粋

表彰式の様子



共に受賞された、小豆島町中央病院企業団 看護師 吉元和子様と

鍋坂先生から喜びのコメントを頂戴しております。

医療功労賞を受賞して

地域医療や保健福祉の向上に長年尽力した人に贈られる「第48回医療功労賞」を令和2年2月10日に受賞しました。

私が理学療法士になった1976年当時は、希少価値があり、まだまだ知られていない職種でしたので、理学療法をしていてもマッサージ師とか物理療法師とかよく言われました。2年程は関西で仕事をし、その後、高松市民病院に採用され、33年間という長きにわたりお世話になりました。

1980年より香川県理学療法士会の役員として活動しましたが、会員数が50名程の小さな会でした。また、総会は参加者が10名程で参加者は必然的に役員となっておりました。この頃より、関連職種や施設から、介助方法や腰痛予防について指導や講演等を依頼されました。

1995年頃には、訪問リハビリテーションを月に一度程度行う機会がありました。この頃はまだ理学療法を受けずに自宅退院する方がおられ、これらの方、家族や保健師さん等に運動、ADLや生活上の注意点等の指導を行うと、目に見えて回復される方が多々おりました。当時の松永会長より、この経験を生かして香川県理学療法士会の代表として介護支援専門員実務研修指導者になるように言われて、20年間ほど活動してきました。介護福祉士や看護師等の様々な職種の方がおられ、職種毎の特徴のあるプランが作成される傾向にあり、自立した生活を行うためのプラン作成の指導の困難さに大変苦慮しました。

現在は医療法人社団弘徳会マオカ病院にて仕事をしております。最近は社会保障費の抑制のためいろいろと制度が変わり、なかなか理解できないところも多くありますが、皆様方のご協力を得ながら活動していこうと思っております。

最後に医療功労賞の受賞に多大なるご尽力とご協力を頂いた香川県民、読売新聞社、香川県や香川県理学療法士会等の関係者の皆様方には深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

医療法人社団弘徳会マオカ病院

鍋坂 信夫

会員一同 心よりお祝い申し上げます！

取材・編集担当：南田